

令和3年度 新潟市文化財センター運営協議会 委員意見概要

日時 令和4年3月

※新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が高い水準で推移していたことから、会場での開催は中止とし、郵便・電子メールにより報告・意見徴収を行うことで運営協議会の開催に代えた（令和4年3月回答）。

委員（五十音順）

内山一敏委員・大谷一男委員・川上真紀子委員・坂井秀弥委員

清水香委員・高橋郁子委員・寺本真理子委員・山口潤委員

【議題】

①令和3年度 発掘調査事業について

●蒲原平野は遺物の宝庫とも言われておりますが、遺物や遺構が地中深くに存することは地盤の自然沈下や洪水などによる土砂の堆積によるものと素人ながらに理解しております。また、調査の機会に恵まれない遺構や遺物が広範囲に数多く眠っていることも事実であろうと思われまます。引き続き、新たな遺物や遺構が発見されることを期待すると共に、発掘調査に関わられる関係者のご努力に心から敬意を表したいと存じます。

●道正遺跡の現地説明会の実施など、よく理解することができました。市民への公開は不可欠なもので、できれば1回ではなく、途中経過でも一定の調査が進めば複数回実施してもよいのではないのでしょうか。一人でも多くの市民が、調査の意義を理解し、文化財の保存・活用に協力してもらうために、情報公開が必要です（回答はNo.1）。

●追加資料の作成、送付いただきまして、まことにありがとうございます。発掘調査の内容について、理解が進みました。今後も、資料の作成については、その対象となる人と目的に合致したものになっているかを常に考えていただければと思います。

道正遺跡では現地説明会が開催されたことは大変よかったと思います。埋もれた遺跡ではないホンモノの遺跡は、発掘現場にしかありません。見学者の感想に遺跡の迫力や見た時の感動が伝わってきます。可能な限り現地説明会の実施をお願いします。

説明会のコメントのなかで、専門用語が多いとの指摘は重要です。文化財を魅力的に感じてもらうには、まずは文化財を理解することが前提です。専門職員が何気なく使う専門用語は、むずかしいものが多いのは事実です。どのような言い換えがわかりやすいか考えて話してほしいと思います。

整理作業の成果も興味深いものが多かったです。線刻土器や佐渡型甕、鉄鐸と舌、X線CTの画像調査は、いずれも大変重要な成果だと思います。こうした成果の公表も検討する必要があるでしょう。報告書に掲載するだけでは、一般市民には届きません。ご検討ください（回答はNo.1・2）。

●発掘調査、整理・報告書作成作業について、一般の人にも分かりやすいように、文化財センター全体や各遺跡におけるスケジュールや進捗状況を、グラフや模式図で可視化できるような資料を提示してはどうか。また、作業に携わる人が見えるような工夫をすることで、今後、こういった活動に理解を得られると思うので、積極的に画像や動画での記録を残し、必要な時に活

用できるようにしておくことは重要だと思う（回答はNo.3）。

- 砂丘の延長線上にあったという興味深い道正遺跡、新発見の遺構もあった様ですが、半分しか調査できなかったものもあるとのこと、とても残念です。珍しい埋没砂丘の調査だったとの事、今後の報告書などへの発表を期待しています。

記入した後に補足資料が届きました。埋蔵文化財の解説は、日常目に行っている方と、全く無関係の人間では理解度は違います（私も一般人）。かみ砕いた説明が必要ですが、説明を見てこの仕事がしたい！と思う若者も子どももいると思います。引き続き精力的な調査、頑張ってください（回答はNo.2）。

②令和3年度 普及活用事業について

- 毎年度実施されている企画展の内容にいつも感心しています。また、企画展を見逃した者も数多くいると思われます。いつかの時点で過去の企画展の内容を冊子にして記録に残すことも重要なことと存じます。一考いただければ有難い。次に、今井さやか氏が担当された“地下2メートルの考古学” コロナ禍の中にあって3,466人の参加者数に、また、奈良佳子・今井さやか・相澤裕子の3氏が担当された“細池寺道上遺跡からさぐる能代川流域の古代”にあっても2,251人の参加者数にそれぞれ驚愕しています。文化財センター各種イベントも企画展同様に成果を發揮していると判断しました。

- 企画展の内容は充実し、講演会も興味深いものでした。これらの市民への周知がどのように行われているのか、知りたいと思いました。特に若い世代へのアプローチをどのように行うのか。SNSの活用も含めて考えてみてはどうでしょうか（回答はNo.4）。

- 企画展はセンターの調査成果を発信する重要な事業であり、年間3つを開催することは大変だと思いますが、継続してください。

企画展についても、毎年の年報に掲載しているような事業内容の資料をお願いできればと思います。この会議用ならば、写真がほしいところです。講演会（民俗のもの）の紹介もあつたらよいと思います。

コロナ禍で、講演会は、会場とオンラインのハイブリッドが標準化しつつあります。今後もこれを継続してほしいです。

イベントについては、なぜその体験を新潟市のセンターで行うのかについて、教えてください。おそらくその文化財や歴史について、イベントのなかで伝えていると思いますが、その具体的な効果や反応があれば教えてください。

センターへの案内看板への迅速な対応をありがとうございます。

著作権の許諾をもらえなかった人はいますか（回答No.5・7・11）。

- アーカイブ配信が予定されていない講演会のオンラインでの参加人数が少ない理由として、まず第一に情報が届いていないこと、その他には参加申込みの手続きが煩雑、Zoomの使い方に不安がある、などがあるように思う。

講演会の告知にSNSを活用したり、申込みやアンケートをGoogleフォームなど入力しやすい形式に変更することも（セキュリティの課題はあるかもしれませんが）今後、選択肢に加えてもいいのではないかと思う（回答No.4・6）。

- コロナ禍であったので、事業がやりにくかったと思われます。体験メニュー、イベントは状況をみながら続けていただきたいと思います。

- 当校の子ども達にも興味深いイベント等と思います。

③令和4年度 発掘調査事業について

- 前年度に引き続き、新たな遺物や遺構が発見されることを期待いたします。また、過年度から継続であります整理・報告書作成事業についても調査研究に成果がもたらされることをご期待申し上げます。
- 茶院遺跡は、かつての調査で少し古めの時期であったかと思います。成果を期待しています。整理作業の成果も楽しみです。

④令和4年度 普及活事業について

- コロナが収束し、文化財センターと学校が連携できる日が来ることを願っております。
- 継続的に実施されている企画展並びに文化財センターイベントに引き続き期待をしております。なお、講演会や速報会にあってはオンライン配信等を行なうとありますが、時宜にかなった計画で新しい時代の突入を感じています。次に、文化財センター普及・活用事業の一つとして、民俗資料収蔵庫に保管している民俗資料の中から、定期的に昔の生活用具などを旧武田家住宅に移動して展示できればマッチングして有益ではないかと存じております。ご一考賜りますれば幸いです（回答No. 8）。
- 講演会・イベント等の開催時にアクセスを便利にする方法は考えられないでしょうか。坂井輪にある西区役所から区バスを出せば、越後線を使って新潟各地から集まることができると思います（回答No. 9）。
- 県・市町村との連携事業は大変よいと思います。これは連携市町村を巡回するのでしょうか？企画展1のタイトルがよいと思います。学校への出前授業などはやっていないのですか？（回答No. 10）
- イベントについて、「土器をつくる」というような1回のテーマよりも、土器をつくって、煮炊きをして、当時の食べ物を食べるといった、製作と体験をつなぐことで、リピーターを増やし、理解を深めるような連続するイベントがあると、参加者が知り合いになることも含めて、楽しい活動になるのではないかと思う（回答No. 7）。
- 県の埋蔵文化財センターはSNSを利用して情報をたくさん出しています。Twitterでもう少し情報発信しませんか。少しもったいないような気がします（回答No. 4）。

⑤開館時間変更（試行実施）の延長について

- 経営改善に向けての試行実施結果について、特に支障は生じないものと判断されます。なお、試行実施の延長は実施済みの結果をさらに確認する意味において当然のことと存じ了解いたします。
- 取り組みの継続は、とくに大きな問題はないものと思いますが、そもそも、この取り組みは、文化財センターの経営改善にどのような効果があるのでしょうか。また、センター利用や利用者の実態などについて、年齢・目的・住所などのおおまかな傾向はわかりますでしょうか（回答No. 12・13）。

【回答】

- ①令和3年度 発掘調査事業について
- ③令和4年度 発掘調査事業について

《要望・質問》

●No. 1. 発掘調査現地説明会・情報発信について

発掘調査現地説明会については、一般の方々に発掘された実際の遺跡の様子を生でご覧いただける唯一の機会であることから、大変重要なイベントととらえています。今年度は、茶院 A 遺跡・寺裏遺跡本調査事業（西蒲区 県営ほ場整備事業）の開始、古津八幡山遺跡確認調査（秋葉区 保存目的）の最終年度にあたり、それぞれ現地説明の開催を予定しています。特に調査期間の長い茶院 A 遺跡については、今後数年事業が継続する見込みであり、地元の方々に広く知っていただくためにも、試行として2回の開催を検討しています。

また、今年度も発掘調査状況や整理作業成果をニュースとしてホームページに掲載し、情報発信を行っていきます。

●No. 2. 専門用語のわかりやすい言い換えや表記について

「出土」を「見つかる」に言い換える、「遺跡」「遺構」「遺物」といった用語の解説をパンフレットなどに入れるといった工夫もしていますが、十分な対応ができていないのが現実です。各種アンケートの結果やみなさまのご意見をもとに、職員間で意見交換の場を持ち、改善していきたいと考えています。

●No. 3. 各遺跡のスケジュール・進捗状況の可視化について

ご提言ありがとうございます。発掘調査、整理・報告書作成作業の進捗状況の把握や可視化については、いつも苦慮しているところです。グラフや模式図での提示方法について工夫してみます。

- ②令和3年度 普及活用事業について
- ④令和4年度 普及活用事業について

《要望・質問》

●No. 4. ソーシャルメディアについて

情報の拡散力や新鮮度としては、ホームページよりも優れていることは感じていますが、新潟市ソーシャルメディア活用ガイドライン（平成 29 年 3 月制定）に沿った運用が求められます。アカウント管理・運用のための知識・技量・人材が十分でなく、ホームページと並行しての運用は難しいのが現状です。単独のアカウントは所持していませんが、企画展など特に地域性のあるものについては、各区に依頼して各区の Facebook や Twitter に掲載していただいています。

また、市役所全体の情報発信として「新潟市 LINE」があるので、企画展案内についての発信を検討しています。

●No. 5. 講演会のハイブリッド開催について

昨年度より、Zoom を使用しての講演会のオンライン配信を行っています。

Zoom に不慣れな方から YouTube の方がよいというお声も実際にいただいておりますが、現在の市役所内情報通信環境として、市役所業務用 PC を外部インターネットに直接接続できず、特殊なソフトを経由しなくてはならないという制約があるため、YouTube によるライブ配信は、難しいと判断しております。

在宅勤務が行われるようになり、市の外部インターネットへの接続方針が変換しつつある状況ですので、今後使用条件が緩和されましたら YouTube の配信へ切り替えも可能と考えています。

●No. 6. 講演会の申し込みを Google フォームなど入力しやすい形式へ変換について

現在、市役所内部の個人情報保護ガイドラインに沿って「かんたん申込み」というフォームを使用しての申し込みを行っています。アンケートにつきましては、今後使いやすいフォームを検討したいと思います。

●No. 7. 文化財センターイベント・体験メニューの趣旨・効果について ※添付資料あり

新潟市にゆかりのあるもの、歴史に関係あるものという視点で事業を組み立てています。例えば、裂き織体験については、民俗資料収蔵庫に裂き織帯が多数収蔵されていることにちなんでいます。また、土器づくりについても、新潟市内もしくは県内出土の土器を基に製作し、竹管や縄文原体（縄文土器の文様つけの道具）を作るところからはじめるなど、一步深い学習ができるようにしています。

体験コーナーで定番の勾玉づくりなどは由来を記載した紙（※添付）を渡し、なるべく展示室へも誘導し「体験だけ」にならないよう注意をしているところです。

効果の具体例としては、土器づくり講座では陶芸の延長で受講された方が、縄文土器の製作工程の奥深さに目覚め、県内外の博物館に見学に行くようになったり、できた作品を庭先に飾り、近所の方や友人に勧めるなど、個人レベルでの発信を行ってくれるようになったことがあげられます。

関連して、土器づくりであれば製作から調理までを通して行うイベントについてご提案いただいた件ですが、こちらも参加者から作るだけでなく是非、野焼き～その他をしたいとの要望をいただいております。しかしながら、市内で野焼きができる場所が皆無であり、センター敷地内も市の文化財である「旧武田家住宅」があるため、火の使用を控えているところです。

●No. 8. 武田家住宅の生活道具の展示について

武田家住宅は、かつて緒立にあった時は、管理人が常駐し民具が展示され、生活感のある建物でした。新潟市文化財センターに移転した際、民具は全て収蔵庫へ収蔵してしまったため、殺風景な雰囲気が否めません。

民具は地域の歴史を語る大事な資料であるため、展示する際に最も気を付けなければならないことは、盗難などにより滅失することです。展示をするのであれば、かつて緒立であったように、常駐する必要があります。現在、武田家住宅の開け閉めや清掃、燻蒸はシルバー人材センターに委託していますが、日中は外構の整備などで室内にいないことがないため、展示監視に

はあたれません。よって、民具の常設は難しいと感じています。

しかし、コロナ禍前 2019 年までは、武田家住宅を利用した主催・共催イベントとして、武田家住宅でのお茶会や昔語りの会を行っており、その際に小規模ではありますがミニ展示をさせていただきました。このように常設では難しいですが、人が集まる機会を利用した展示は今後再開していきたいと思えます。

●No. 9. アクセスの改善について

イベント開催時の区バス利用についてですが、運行ルートも異なるため利用できません。文化財センターの限られた予算の中で、臨時バスを運行する費用がないのが現状です。

アクセスの不便さがネックとなり来館できないお客様のために、今後もオンラインによる講座配信や、企画展動画の配信によって補完できたらと考えています。

●No. 10. 学校への出前授業について

令和3年度の学校向け出前件数は、小学校8校（うちリモート2件）、中学校2校（うちリモート1件）計733名の利用がありました。蔓延防止等重点措置が発令され、9月と1月に職員の派遣が中止になったため、例年より少ない状況です。

例年ですと、出前授業では小学校6年生で「大昔のくらし」単元において、縄文時代と弥生時代の違いとして、実際に土器にさわったり、黒曜石で葉を切ったりする授業を、小学校3年生の「むかしのくらし」では、民具を使った昔の道具の体験と説明を行っています。

リモートでは、「学芸員のお仕事紹介」や「菖蒲塚古墳についてさらに詳しく Q&A」のメニューを行いました。リモート向けのテーマを用意していた訳ではなく、いずれも学校からの依頼に基づくテーマでした。「学芸員のお仕事紹介」では、曾我墓所遺跡で撮影した現場の動画を子どもたちに見てもらったところ、「土器が見つかった時の嬉しさが伝わってきた」「新しいものの第一発見者になれるのがいいと思った」「自分も好きなことを調べる仕事をしてみたい」などの感想をいただきました。

●No. 11. 報告書 PDF 化において許諾をもらえなかった人はいるか？

協議会の資料を作成した時点では、許諾が届いていない方が数名いましたが、その後依頼をした全ての方から許諾をいただきました。現在、市のホームページと奈良文化財研究所の全国遺跡報告総覧で広域合併後の市の報告書を閲覧することができます。

令和4年度以降は、広域合併前の報告書について許諾を得る作業を行う予定です。

⑤開館時間変更（試行実施）の延長について

《要望・質問》

●No. 12. 開館時間変更による新潟市文化財センターの経営改善効果について

土日・祝日の開館時間短縮により、空調設備稼働に必要な電気料や施設管理業務委託料を削減することができました。また、文化財センターでは、発掘調査・整理業務の業務量が増加傾向にあり、人員の不足が生じています。開館時間短縮等によって発掘調査・整理業務に人的資源をシフトすることができます。

引き続き、開館時間の短縮等による施設運営への影響を確認してまいります。

●No. 1 3. 文化財センター利用者の年齢・目的・住所等について

令和3年度 文化財センター入館者数：7,469人（個人：5,366人、団体：2,103人）

（団体利用者内訳）

①利用者年齢・利用目的

	利用者数	利用目的
園児	192人	体験広場利用
小学生	1,857人	展示見学+体験（1,709人）、体験広場利用（148人）
大学生	11人	バックヤード見学+図書室利用（11人）
その他	43人	展示見学（30人）、展示見学+体験（13人）
計	2,103人	

②利用者居住地

居住地	利用者数	
新潟市北区	128人	小学生（115人）、その他（13人）
東区	279人	小学生（279人）
中央区	242人	小学生（242人）
江南区	107人	小学生（107人）
秋葉区	109人	小学生（109人）
南区	0人	
西区	950人	園児（192人）小学生（747人）、大学生（11人）
西蒲区	205人	小学生（205人）
その他新潟市内	15人	その他（15人）
新潟県内	53人	上越市・小学生（53人）
新潟県外	15人	その他（15人）
計	2,103人	

※個人利用者については、年齢・目的・住所等は不明です